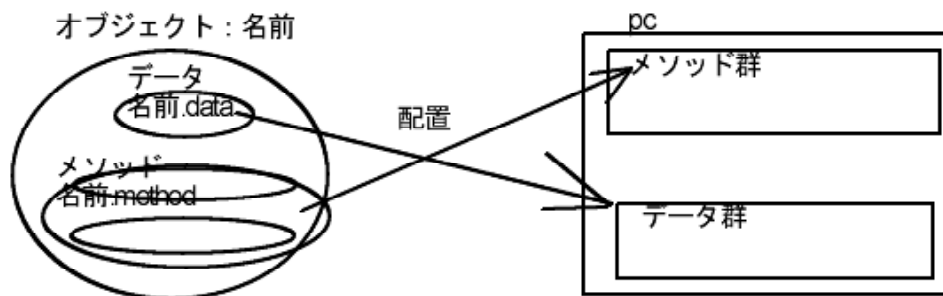


オブジェクト指向はメモリのオーバーヘッドがあるし、工夫しないとメソッドのハードウェア化が面倒になります。それはデータとメソッドを一緒に扱うからです。そこで、仮想的にはデータとメソッドは一つの固まりなのですが、データとメソッドを別に管理することを考えました。基本的にアドレスはオブジェクトの名前とオブジェクト内の相対アドレスで管理することとします。これは再配置可能とするためです。名前をアドレスに変換するテーブルはPC毎のオブジェクト指向バーチャルマシンが持っていることにします。

データの名前とメソッドの名前は基本的に同じで、相互に参照関係を持たせます。データとメソッドの違いは名前のサフィックス違いで表現します。メソッドの中にはクラス情報など、管理データも入ることとします。

こうすると、PCをまたがってオブジェクトを配置するときに、メソッドをあらかじめ配置し、後からデータを必要なときにコピーしてくるというようなことが簡単にできます。また、ハードウェアに固有のメソッド(よく使われるメソッド)をインプリメントして、また、複数個平行処理できるようにして実現できます。



おわり